

令和4年度兵庫県立龍野北高等学校(全日制) 学校評価結果報告書

1 中長期目標

【目指す学校】 夢と目標を明確に持ち、自尊感情を高めていく生徒

2 本年度の重点目標

「積極的にあいさつをしよう」
「学校生活を全力で送ろう」
「知ることを楽しもう」

3 総合的な自己評価

本校の学校評価は、学校重点目標にリンクさせた評価項目を設定している。評価指標は各学年、部署、学科ごとに決めているが、達成度が分りやすく途中で評価基準の見直しができるよう、できるだけ数値目標を定めるようにしている。また、全職員が全ての部署の評価をするため、それぞれの目標や指標に対してどのような取り組みがわかるようシートを作成し、常時閲覧・更新ができるようにしている。生徒・保護者による外部評価は、自分たちの取り組みがどう見られているのかを知る資料となり、活動や目標の改善、発信力の工夫につながっている。

総合評価としての最終評価は「B」が多い。「C」評価についても「B」に近い評価となっている。昨年と同様な結果が伺える。今年度もコロナ禍において、感染対策に十分留意し、これまでの教育活動が続けられるよう、学校行事を実施してきた。地域拠点型防災訓練や学習成果発表会なども、多少の変更点はあったものの、通常内容に近い行事を行った。次年度についても、今年度と同様、感染対策を工夫しながら、地域との活動に関して情報交換し、活動に取り組んでいきたい。

毎年多くの職員が異動するが、新しく着任された先生もこれまで築き上げた良き伝統を継承し、校長の理念の基、新たな校風づくりを目指し、職員が一人となり高い意識を持って学校改善に取り組んでいる。生徒・保護者アンケートの結果は職員で共有しており、問題解決に向け改善策や意識改革の必要性を確認している。

入学してくる生徒は多様化しているが、基本理念は継承しながら時代に合った新たな取り組みを探るという柔軟な姿勢での対応を心がけている。目標にある「積極的にあいさつをしよう」は、誰もに要求される項目であるが、とりわけ専門高生には必須である。本校が開校以来、指導の中心としてきた「挨拶」は重点目標の根幹でもあると認識しており、さらなる向上を目指している。本校で率先している「語先後礼」についても同様に徹底を図り、朝の立ち番指導も継続的に、「挨拶」をすることの意味と意義について考えさせることにより、挨拶への意識変化を期待している。今後も、部活動や生徒会の協力で、生徒による挨拶運動をさらに活性化させていきたい。

生徒の学習態度・生活態度は落ちてきていると思われる。きめ細かな取り組みや生徒との信頼関係を重視してきた結果だと思っている。取り上げる問題点とすれば、通学マナーの面で改善を求めると認識して取り止め、指導の見直しや仕方が工夫が必要であると考えた。県立高校の統廃合などが始まる中で、更なる龍野北高校の他にない魅力ある学校づくりへ向けた指針をあげ、学習環境の整備と教員の資質向上に努めたい。今後も感染対策をしながら、各部署や科での取り組みや交流活動を通じ、目標を持つことや人とのつながり、命の大切さ等、意識向上を目指し学校を挙げて取り組みをすすめていきたい。

基礎的・基本的な学力の向上や進路目標の達成に関しては、各部署でも重視しており、授業規律の確立や家庭学習の定着を一層の注意喚起を続けることが必要と再認識している。研究授業週間では、積極的な研修授業が行われ、参観した教員も多く、協議や意見交換をする中で授業の活性化につながった。

部活動では、「いきいきハイスクール事業計画」に従い、工夫しながら熱心に取り組むことができた。その結果、全国・近畿大会へ出場する活動もあり、今後も活躍を期待できる。各部署活動において感染対策をしっかりとしながら活動を継続することで、多面的な人間形成に役立つと期待できる。

4 総合的な学校関係者評価

<評価全般について>

- ・生徒・保護者による外部評価の結果を適切に活用し、活動の改善に努めている点は評価できる。
- ・評価を数値化することでわかりやすくなったように思える。しかしそれが正しいものかどうかを本音で話し合うことも必要ではないか。
- ・できるだけ数値目標を定めるようにされており、達成度がわかりやすい。
- ・最終評価は「B」が多いとされているが、今後「A」評価を目指した取組を検討していただきたい。
- ・最終評価は「B」が多いが、本当にそうなのか、問題意識が必要である。
- ・中期目標を「夢と目標をもち、自尊感情を高めていく生徒」とし、重点目標を3つ掲げているので、これらの目標に対する項目を評価に入れていただくと評価できると思う。
- ・生徒一人一人、自尊感情を高めるには自己肯定感や自己効力感を高められることなので、学校としてどのような取組を行い生徒の状況をどのように認識しているかを示してもらおうと捉えやすい。
- ・3つの重点目標ごとにどう評価をするのか検討した上で、評価結果を示したほうがわかりやすい。「知ることを楽しもう」がどちらの評価観点にも含まれており、評価項目と指標がどのような構成されているのかわかりにくく評価しづらかった。

<挨拶について>

- ・「挨拶」習慣についてはその意義を理解させながら定着を図っている点は評価できる。
- ・学校に行ったとき、ほとんどの生徒が挨拶をしてくれ、とても気持ちいい。
- ・学校周りを散歩している際、生徒から挨拶があり気持ちよく感じた。校内だけでなく校外でもそのような行動をとれるのは日頃の先生方の指導の成果を感じている。
- ・対面の場合は挨拶できていたが、少し離れている場合はできていない。発声はできなくとも、会釈は必要だと感じる。挨拶に笑顔が伴えば、なお良い。
- ・コロナ禍により、来訪者と接する機会がなかったせいか、来訪者への接し方について生徒の戸惑いを感じる。市のイベントにおいても同様の感じがした。コロナ禍は生徒に少なからず影響を与えたと感じた。

<教育内容>

- ・専門科教育の高校である強みを活かして、各教科の特徴・成果を発信し、各科間の交流活動を行っていることは、教育効果を期待できる。
- ・授業も自分の興味関心のある学びたいことが学べるので、卒業後の目標も立てやすいと思う。
- ・感染症対策を工夫しながら、地域との活動に関して情報交換し、活発な地域交流を期待する。
- ・学習成果発表会で各学科の発表を聞き、各学科で専門的な学習をし、学年ごとに学ぶ内容も異なり、それぞれが夢に向かって学習をしている様子があった。重点目標である「積極的にあいさつをしよう」「学校生活を全力で送ろう」「知ることを楽しもう」は概ね達成できているように思った。

<部活動>

- ・今後、他校との連合や外部講師の招聘なども視野に入れ、より活発な活躍を期待したい。

5-1 重点目標ごとの自己評価 (A 達成できた 3.5以上 B おおむね達成できた 3.0以上

C やや達成できた 2.5以上 D 達成できていない 2.5未満)

6-2 重点目標ごとの学校関係者評価

| 重点目標 | 担当部署 | 項目内容または評価指標 | 達成状況 | 次年度への取り組み及び改善策 | 学校自己評価の結果についての学校関係者評価 |
|------------------------|---|--|----------|---|---|
| 1 積極的に挨拶をしよう・3知ることを楽しむ | 1学年 | 高校生としての自覚を持ち、規則正しい生活習慣を確立する。 | B (3.08) | 項目内容、評価指標は数値化し、項目内容をひとつにすることで、達成度が明確になるようにした。前年度と比べて、生徒・保護者それぞれにおける評価に大きな変化はない。 ○登下校における通学マナーは、特に電車利用において車内で「うるさい」と乗客の方から苦情があった。全校集会やホームルーム等で登下校時の交通指導、マナー指導を行ってきたが、状況改善のため、真摯に受け止め、今後もマナー改善に努めたい。 ○挨拶については、学年を問わず、生徒指導の一環として「語先後礼」を指導している。概ね出来ていると評価しているが、今後も継続して指導を続けたい。 ○スマートフォン・タブレットおよびPCの使用マナーや利用時間については、学校や家庭でのルール作りと共に情報モラルの知識が必要不可欠である。日頃から集会を通して生徒に注意喚起が必要だと認識している。 ○進路指導においては、社会が求める人物像について考えさせるプログラムを導入し、進路ガイダンスや進路講演会をより充実させ、早い段階から進路実現に向けた取り組みを継続する。 ○本校の特色を活かした地域貢献活動やボランティアは、コロナ禍であっても、可能な限りの規模で安全に(健康面)配慮し、計画通り実施できた。 ○授業の活性化や理解度や興味関心を高揚に繋がるようにBYODの導入をはじめ、ICTの活用により、学習環境の整備と積極的な取り組みを更に進めていく必要があると思う。 ○コロナ禍が継続する中で、保健活動を積極的に、校内の安全面・衛生面に気を配った。その結果大きな混乱することなく、2年間制限されていた学校での活動を広げることができ、教育活動がコロナ以前の形態へ戻りつつある。今後もこの方向性を継続していきたい。 | <評価について> ・学年評価と学科評価に差がある。学科意識が高いのは大いに評価できるが、龍野北高生として全体意識を高める工夫が必要。 ・「前年度と比べ、生徒・保護者それぞれにおける評価に大きな変化はない」とされているが、前年度の評価を比較できるような資料があるとうわりやすい。 ・「前年度と比べ、生徒・保護者それぞれにおける評価に大きな変化はない」とされているが、良い状況はそのまま良く保たれているが、悪い状況は改善されていないことになる。図書館の利用は「E」、進路指導や情報発信は「C」であり検討が必要である。 ・評価のグレードが教員アンケートに基づく平均得点で示され、最終評価の決定とリンクしているのか判断しにくい。職員アンケートの結果は結果として記載し、達成度評価は各部署の担当者で判定し、その評価の根拠を最終評価に記載すると実態が把握でき、今後の取組、改善策も検討しやすくなる。 |
| | 2学年 | 中堅学年としての自覚を持ち、規則正しい生活を送ることを心がける。 | C (2.94) | | |
| | 3学年 | 最高学年としての自覚を持ち、社会人としてのルールやマナーを身につけ、何事にも耐える忍耐力を磨く。 | C (2.86) | | |
| | 電気情報 | 社会人としての常識と知識を身につけられるように、目標に向けて自己探求ができる生徒を育成する。 | B (3.33) | | |
| | 環建建設 | 産官民と連携を図り、人とのかわりを大切にしながら汎用的な力を育てる。 | B (3.40) | | |
| | デザイン | 地域で行っている活動において、様々な年齢層の方々と交流を通して、挨拶、言葉遣い、礼儀やマナーなど、適切なコミュニケーションが取れる生徒を育てる。 | B (3.24) | | |
| | 看護 | 時と場に応じた挨拶、言葉遣いができる。 | B (3.22) | | |
| | 総合福祉 | 自分の意見や考えを相手に誠実な態度で、明確に伝えることができる生徒を育てる。 | C (2.98) | | |
| | 広報情報 | ホームページ・ブログ・新聞等で生徒の頑張りを広報することで、自主的・主体的に取り組むことができる生徒を育てる。 | B (3.30) | | |
| | 教務 | 生徒の自主性や意欲を高め、課題の発見・解決に向けた主体的・探究的・協働的な取組ができる生徒を育てる。 | C (2.94) | | |
| | 生徒指導 | 校内・校外関わらず、「立ち止まり礼」、語先後礼の挨拶を徹底させる。 | B (3.02) | | |
| | 進路指導 | 自分の意思を的確に伝える力を高めるとともに、社会人として必要なルールやマナーを身につける。 | B (3.12) | | |
| | 保健 | 生徒自身が心身の健康を自己管理し、安定した学校生活を営む。 | A (3.54) | | |
| 地域連携 | 校内外の活動を通し、積極的に発信する力とコミュニケーション能力を向上させる。 | B (3.10) | | | |
| 図書人権 | 本を読んで知識を吸収し、自ら学ぶようし、周りの状況にも配慮しながら、自分の意見を述べる力をつける。 | B (3.33) | | | |

5-2 重点目標ごとの自己評価 (A 達成できた B おおむね達成できた C やや達成できた D 達成できていない)

| 重点目標 | 担当部署 | 項目内容または評価指標 | 達成状況 | 取り組み状況及び改善策 |
|---------------------------|---|---|----------|--|
| 2 学校生活を全力で送ろう・3 知ることを楽しもう | 1 学年 | 家庭学習の習慣を確立し、基礎学力の定着と向上を図る。 | C (2.86) | <p>1 学習の習慣 ○基礎学力向上のため、教務部・学年・各教科・学科が連携を強化して取り組んだ。</p> <p>○家庭学習の時間の確保が少ないと思う。資格取得が絡む学習時間を確保していると思うが、進路実現に向けた基礎学力向上させるためには、更に意識づけが必要に思う。</p> <p>○家庭学習の習慣を身につけさせるための方策として (1)家庭学習調査を実施して結果から意識を高める。 (2)予習復習課題や小テスト・週末課題を課しチェック。 このような取り組みを行う必要性がある。</p> <p>2 教員の資質向上 (授業力向上) ○公開授業は、いつでも見学できるように体制づくりをしている。</p> <p>○研究授業週間の実施9月から10月にかけての1ヶ月間で、教科・学科を超えて研究授業をすることで、教員の研修の機会を設け、授業の活性化と資質向上(授業力向上)を試みている。</p> <p>○教職員の資質向上を目指し、外部の講師を招いて研修会を実施してきた。国や県からの通知・通達等についても、積極的に情報提供を行ってきた。さらに、教科会や委員会単位でも職員研修の機会を設けてきた。</p> <p>3 生徒指導 ○授業規律の向上は、各教科・学科・学年が連携し、組織的に取り組んでいる。</p> <p>○携帯電話の使用ルールやマナーの意識は高まってきている。さらに、明確なルールづくりを進める。</p> <p>4 進路指導 ○進路指導・キャリア教育・資格取得の取り組みを通じて学習意欲を高める。1年次より進路ガイダンスの実施、2年次でのインターンシップ参加や進路だりの発行による意識づけを行う。</p> <p>○各自キャリアノートを持たせ、朝補修・模擬試験・補習・資格取得学習について自主的・計画的に取り組めるようにしている。</p> <p>○以上のような取り組みの結果、公務員2名・就職希望者は100%内定を実現できた。コロナ前と変わらず求人も確保できた。</p> <p>○大学進学については、国立進学者はなかったが、指定校等の推薦入試による進学は順調であった。今後もこの取り組みを継続し生徒の希望する進路実現に向けて学校全体で進めていく。</p> <p>5 生徒理解 ○カウンセリングマインド研修を行い、生徒理解につとめ、個別の対応が必要な事例について研修を進めた。</p> <p>○教職員に「指導に配慮を要する生徒」への情報共有を徹底し、学校生活に支障がないよう共通理解を図った。基礎学力向上のため、教務部・学年・各教科・学科が連携を強化して取り組んだ。</p> |
| | 2 学年 | 進路実現を見据え、着実に実力をつける。 | C (2.86) | |
| | 3 学年 | 進路実現に向けて、一人ひとりの進路実現に向けた準備を行う。 | B (3.02) | |
| | 電気情報 | 自己実現のために何事にも自主的に探究して行動する力を養う。 | B (3.07) | |
| | 環建建設 | 建設業セミナーを通して専門教科への取り組み意識を高めるとともに、積極的に資格取得を目指す。 | B (3.14) | |
| | デザイン | 専門分野の学習の応用で、各種検定・コンクール応募に積極的に取り組みませ、検定合格を目指し、県内の各種コンクールで最高位入賞、全国の各種コンクールでの上位入賞を目指す。 | B (3.09) | |
| | 看護 | 検定や模擬試験などに自ら目標を設定し、自己実現に向けて努力ができる。 | B (3.09) | |
| | 総合福祉 | 福祉の学びを活かして豊かな人間性を育み、自身の夢や目標に向けて積極的に取り組む。 | B (3.02) | |
| | 広報情報 | 広報的活動を通して本校の生徒である自信と誇りを共有し、多くの人に自分の学校を説明できる生徒を育てる。タブレット端末機を活用した教育環境の充実。 | B (3.00) | |
| | 教務 | 日頃の家庭学習習慣の確立を図るとともに、授業の指導方法を工夫し質の向上を目指す。 | C (2.83) | |
| | 生徒指導 | 学校生活が安全で安心して生活できるよう、規範意識を高め、基本的生活習慣を確立させ、社会に通用する礼儀・マナー・生活態度を身に着けさせる。 | C (2.68) | |
| | 進路指導 | 各の個性を生かせる進路を自主的に選ぶ能力を伸ばす。 | C (2.98) | |
| | 保健 | 厚生委員会を中心として、清潔な環境づくり・感染症予防に取り組む。 | B (3.27) | |
| 地域連携 | ボランティア委員、各科の行事、防災活動を通し、自分で考え行動できる環境づくりと成果を発信する機会をつくる。 | B (3.00) | | |
| 図書人権 | 図書委員会を中心として、図書室の利用活性化に取り組む。 | B (3.24) | | |

「いじめ対策」に関する評価は自己(自分自身)の評価である

| 重点目標 | 担当部署 | 項目内容または評価指標 | 取り組めた項目数の平均 | 取り組み状況及び改善策 |
|---------|------|--|-------------|---|
| * いじめ対策 | 全職員 | ①いじめに関する職員研修を受ける。 ②日頃より生徒との面談の機会を設ける。 ③早期発見のためのアンテナを高くする。 ④「ホウ・レン・ソウ」を徹底し全職員で共有する。 ⑤情報モラルの指導を強化する。 ⑥開発的指導を充実させ、いじめを許さない学校づくりに務める。 | 3.03 / 5 項目 | いじめに関しては、絶対にいじめを許さないという断固たる学校の姿勢を生徒や保護者、地域住民に周知する上で、定期的な情報交換ができる体制をとり共有することで問題を未然に防ぐ組織を構築している。いじめアンケートや、生徒からの聞き取りを中心に情報を集め、知り得た情報を有効に活用し、いじめが無い学校、生徒が安心して生活できる環境づくりを実現できるよう、職員が一丸となって取り組んでいる。早期発見に向けて、教員間の連携と情報共有に務め、SNSに関しても、被害者だけでなく加害者となりうる要素が大きいため、全校集会を始めホームルームを通じてその利用方法やモラルに関する注意喚起を行っている。 |
| * ICT活用 | 全職員 | Gsuite、Teamsなど、タブレットを使った授業・課題に情報通信技術を活用する。 | C (2.84) | 普通教科・専門教科の導入しやすいところから順にタブレットを活用した授業展開・家庭学習・課題提供を行っている。「卒業後にはタブレット端末機は巧みに使える」ことが当たり前となる時代の時代が来るので情報端末機が扱える生徒を育成し、教員の資質向上に取り組む必要がある。 |

6-3 重点目標ごとの学校関係者評価

| 学校自己評価の結果についての学校関係者評価 |
|--|
| <p>1 学習の習慣 ・基礎学力向上のため、教務部・学年・各教科・学科が連携を強化して取り組んだとあるが、具体的な取り組みを記載してほしい。また、生徒・保護者の評価はどのようになっているので、どう評価し、今後の対策はどのようなものか記載があるとうい。 ・家庭学習の時間の確保が少ないことに対する具体的な取り組みを提示しているので、次年度はその成果が評価できるよう工夫を検討してほしい。 ・5-1と5-2の取り組み状況及び改善策の記載が異なっています。教員の資質向上は、どの重点目標に対する取り組み及び改善策なのか。加えて、生徒指導、進路指導、生徒理解についても、どの重点目標に対する取り組み及び改善策なのかわからない。 ・国家試験に向けて対策をしてください、ありがたい。 ・基礎学力の向上は最優先課題である。専門的知識・技術を覚えるだけでなく深化させるための土台であると考えます。またこれと関連して専門分野が社会全体のなかでどのような役割を果たしているか理解できるように「教養」的な学習内容を取り入れると、なお良いのではないかと。 ・基礎学力は将来にわたって必要である事(進学や就職、就職してからの上級資格取得や昇進など)を1年生から指導していかねばならない。 ・総合福祉科の現場実習を毎年受けている。近年、生徒は真面目であるが明るさを感じない。積極的なコミュニケーションに物足りなさを感じる。</p> <p>3 生徒指導 ・保護者・生徒のアンケート結果の自由記述欄では「校則が厳しい」との意見が書かれている。 ・高校生活では、失敗してもまた挑戦できる環境と時間を整えることが大切に思っています。最後の機会だと思います。 保護者・生徒のアンケート結果の自由記述欄では、保護者から「ファッションショーの準備で時間がなくて部活動に参加できない時期はそういう事情を考慮してほしい。部活動指導の見直しをしてほしい」との意見が書かれています。生徒が自分で考えて行動する習慣が身につくまでは、先生方は、焦らなくて、生徒に考える時間を与えてあげてください。 ・生徒指導の達成状況が(C:2.68)と本評価項目において一番低い結果となっており。取組状況及び改善策の項目での内容を検討することが課題となる。</p> <p>4 進路指導 ・進路指導においては、保護者・生徒は「満足できない」、「適切でない」、「情報が不十分」として「C」の評価になっている。 同窓会員には、様々な企業で活躍している方がたくさんいます。これからはもっと同窓会と一緒に取組んでいってほしい。 ・進路について、専門学科の強みを生かしており大いに評価できる。</p> <p>・3年生は龍野北高等学校に夢と希望を持って入学したが、新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの制限を受けた学校生活であった。2月25日の卒業式の参列は叶わないが、卒業生全員に拍手とエールで送り出したい。</p> |

6-4 重点目標ごとの学校関係者評価

| 学校自己評価の結果についての学校関係者評価 |
|---|
| <p>・生徒と先生が気軽に話せる場所(居場所)と時間を整えることが大切だと思う。定期的に生徒とゆっくり会話する機会を作ってみてほしい。</p> <p>・取り組み状況は記載されているが、その結果の記載がなく、学外者にとっては評価しない。構内で内容のいじめの実態把握がどのようになっているのかなど、客観的指標を元に評価してほしい必要がある項目である。例えば、いじめアンケートは、いつ誰を対象に実施し、どのような結果が得られ、その結果に対してどのような取り組みがなされたかわからない。</p> <p>・人間関係で子どもが悩んだとき、担任の先生相談できた。とてもありがたかった。日頃子どもをよく見てくれていると感じる。 ・SNSでのいじめなど、ニュース等でよく耳にする。これからは「いじめを許さない」という姿勢と環境づくりをお願いしたい。</p> <p>・いじめを未然に防ぐ組織体制を構築していることは評価できる。これについて、生徒・保護者に周知されているのか。できる限り透明性を高めた取組が望まれる。</p> <p>・新型コロナ感染者、濃厚接触者のアフターケアにご留意いただきたい。</p> <p>・①～⑥の6項目のうち、取り組めた項目数の平均が3.03は低いように感じる。項目別の集計結果があれば、取組内容を具体化できるのではないかと。</p> <p>・保護者・生徒のアンケート結果の評価、自由記述欄をみると、保護者・生徒と先生方のICTに取組む必要性や内容が必要とされていると感じた。生徒からの意見や提案を受け入れてみてはどうか。 ・学校全体で取り組まれていることは、校長からの説明で理解した。タブレットを活用した授業はどの程度実施されているのか、全生徒がタブレットを購入・活用できているのか、購入できない、活用できない生徒に対する対策はどのようになっているのか等、情報技術を活用できる環境整備や情報技術を活用し得るための生徒のITリテラシー・情報リテラシーに関する教育などの実施の程度など、実態がわかること、評価しやすくなる。 ・卒業後、就職・進学いずれにしても必要になる物なので、卒業するまでには使いこなせるようになってもらいたい。 ・タブレットだけでなく、PCも含め機器操作だけでなく、ネットワークシステム、セキュリティなどについて基礎知識が必要である。</p> |